

高次脳機能障害

脳へのダメージに起因。記憶障害、注意障害などさまざま

交通事故や脳血管障害などの病気により、脳にダメージを受けることで認知や行動に生じる障害。身体的には障害が残らないことも多く、外見ではわかりにくい「見えない障害」とも言われています。主な症状として「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」「病識欠如」などがあります。

大切なことはメモに書いて手渡して

理解しているようでも実は理解できていなかったり、すぐに忘れてしまうことがあります。大切なことはメモに書いて手渡すと伝わりやすくなります。



何ができて何ができないかの確認を

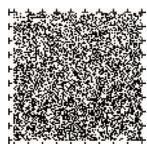
高次脳機能障害は人によってさまざまな症状があります。自分の障害を十分に説明できないこともあるので、できれば患者だけでなく、家族にも確認するとよいでしょう。

患者の顔を見て直接のやりとりを

患者の顔を見て「どこが痛い？」「何に困っていますか？」などシンプルな表現で直接のやりとりを。ゆっくりわかりやすい言葉で話しかけ反応を待ちましょう。

こんなことも…

- ☐ 神経疲労（脳疲労）など、健常の人に比べて脳が疲れやすい傾向があります。
- ☐ 半側空間無視や視野の障害などで、健常者より狭い空間を通りにくいことがあります。
- ☐ 地誌的障害のある方の場合、慣れ親しんだ場所でも迷うことがあります。
- ☐ 音や光に敏感な方もいるので、体調によっては不調が強くなることがあります。



失語症

脳の病気や事故が原因で言語機能が損なわれる

失語症は言語障害の一種。脳の病気や事故が原因で「言葉が声に出せない」「話していても、聞いた言葉が理解できない」といった言語機能が損なわれた状態です。病気の程度が同じでも個人差が大きく、失語症が重いと「読む」「書く」もできなくなり、必要な配慮が変わってきます。

一人ひとりの状態を知ることから

「言葉が出ない」「話せるけど理解できない」「書けない」「読めない」など人により状態はさまざま。その人の状態を理解することが大切です。患者はお願いごとを書いたメモを持参するとよいでしょう。



わかりやすく ゆっくり話しましょう

説明の内容を理解できない、話すスピードが速く聞き取れないことがあります。文字や図を示しながら、ゆっくり、わかりやすく話しましょう。大切なことはメモに書いて渡すと忘れません。

患者が答えやすい質問方法で

考えとは違うことを話したり、うまく表現できないことがあります。言葉を待つ、確認する、「はい」「いいえ」で答えられるよう質問を工夫することが大切です。

こんなことも…

- ☐ 家族や同行者がいても、患者に向かって説明するようにしてください（取り残されたような気持ちになります）。
- ☐ 受付での説明が理解できないことがあります。ゆっくりわかりやすく話してください。

